

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 9 回 定例委員会
日時	平成29年8月25日 自 15時00分 至 16時02分
場所	教育・福祉センター4階研修室
出席委員	教育長 和野 幸夫 委員 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫
欠席委員	
会議録署名委員	上原 毅 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 前田 亜矢子
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 口 朋 史 教 育 部 参 事 丹 野 靖 彦 総 務 企 画 課 長 釜 田 直 樹 学 校 教 育 課 長 斎 藤 貴 志 第 1 学 校 給 食 共 同 調 理 場 長 宮 嶋 和 久 指 導 室 指 導 主 事 渡 辺 知 峰 総 務 企 画 課 主 査 下 濱 辰 哉 学 校 教 育 課 学 務 係 長 澤 田 由 美 子 第 2 学 校 給 食 共 同 調 理 場 給 食 係 長 千 木 良 訓 世 総 務 企 画 課 主 事 前 田 亜 矢 子 学 校 教 育 課 学 務 係 主 事 小 橋 洋 太
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（和野教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（上原毅委員）
3 会議録の承認
（和野教育長） 第8回定例教育委員会（平成29年7月28日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（和野教育長） はじめに、午前中は大成小学校、午後から泉野小学校を訪問いただきありがとうございます。何点かご指摘をいただきましたが、他にもお気づきの点がありましたら、いつでも結構ですのでご指摘をいただきたいと思います。
先月7月28日開催の第8回定例教育委員会以降の事業などについて報告いたします。
7月27日からのトヨタ自動車北海道株式会社創業25周年記念事業「水から未来を紡いで 20世紀美術の創造」と題した美術博物館（あみゅー）特別展を皮切りに、7月30日まで美術博物館祭を開催し、並行して29日及び30日には出光カルチャーパーク、サンガーデン、中央図書館を会場としてアートフェスティバルを開催しております。ここ4年間は雨天での開催でしたが、今年は晴天のもとで盛

<p>大に開催することができました。例年ですと5,000人前後の来場ですが、今年は1万2,300人の来場をいただきました。例年の約3倍の来場者を得て、その対応に走り回って嬉しい悲鳴が聞こえてまいりました。大会の成功が天気要因では主催者としていかななものかと思いますが、残念ながら屋外イベントの成否は「天気が8割」と言われます。来年も担当者の更なる努力と天気を祈りたいと思います。また、美術博物館祭では、展示に加えワークショップや博物館ナイトツアー等の企画も展開し、1,500人程の市民の皆さんに参加をいただいております。</p>
<p>8月1日から6日まで、全国から27チームが参加して第12回全国高等学校選抜アイスホッケー大会が開催されました。釧路市の武修館高校が優勝し、苫小牧勢では駒澤大学附属苫小牧高校が昨年と同じく3位になっております。この大会は11回目の昨年度から国の補助金のスキームが変わって補助額も圧縮され、事業内容を見直して実施したところではありますが、何とか例年どおりの成果のある開催ができたものと思います。</p>
<p>8月5日、6日には第62回とまこまい港まつりが開催され、上原委員、佐藤郁子委員、佐藤守委員には大変暑い中市民おどりの審査員をお願いし、上原委員、佐藤守委員には翌日のポートカーニバルにもご臨席をいただき、大変ありがとうございました。</p>
<p>市民おどりには、苫小牧東小学校及び植苗小中学校がPTAや地域との連携事業として参加し、校長先生、教頭先生にも踊りを披露していただきました。また、翌日のポートカーニバルには勇払中学校の生徒が勇払郷土芸能「勇払千人隊」としてしっかりと参加をし、教頭先生も某テレビ局のインタビューを受けておりました。このように、地域の小学校や中学校が祭りに参加しますと沿道には保護者などの観客も増え、祭りが一層盛り上がります。各学校の参加に感謝を申し上げます。また、マーチングフェスティバルとポートカーニバルには、豊川小学校をはじめ多くの吹奏楽クラブに参加いただき、そのレベルの高さに毎年感動しているところであります。一方で、校長先生や教頭先生の中には十分休むことができなかつた方もいるのではと心配してい</p>

るところであります。

8月22日及び23日には、平成29年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会が稚内市で開催され、全委員にご参加いただきありがとうございました。道内の都市教育委員会でも、人口規模により議論がかみ合わないと感じることも多いのですが、さまざまな市の取組を直接聞く大切な機会であり、ネットワークづくりにも重要な機会であります。今後とも委員の皆様にはご参加いただきますようお願いいたします。

また、平成30年度に使用する教科用図書の採択に関して8月4日、10日の2日間にわたって調査研究小委員会報告や勉強会を開催し、議論をいただきました。本日の会議では、この「特別の教科 道徳」の教科用図書の採択のほか、小中学校の教科用図書についてお諮りいたします。また、苫小牧市立（仮称）第16中学校の校名についてもお諮りする予定になっておりますので、よろしくご審議をお願いいたします。

報告は以上でございますが、何か質問はございますか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 平成30年度使用 教科用図書の採択について

(学校教育課長) 平成30年度から使用する小学校「特別の教科 道徳」の教科用図書採択についてご説明いたします。

本件にあたりましては、5月定例教育委員会で採択要綱等を決定し、それに従って7月7日に調査研究委員の委嘱を行い、調査研究を開始しております。8月4日には、調査研究委員長より委員の皆様へ調査研究結果の報告を行ったところであります。調査研究項目といたしましては、これまでどおり取扱内容、内容の構成、配列及び分量、

使用上の配慮等、その他4点の観点から取りまとめられておりますが、採択の基準をより明確にするために、本市の現状や児童生徒の状況、本市の道徳教育の現状を踏まえた本市の視点を示し、調査研究項目に加えたところであります。報告書につきましては採択参考資料として提出されておりますので、詳細についての説明は省略させていただきます。

教育委員の皆様には、既に8月4日及び10日の勉強会において意見交換を行っていただきましたが、本日は8者のうち1者を採択していただくこととなります。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

(和野教育長) それでは、はじめに「特別の教科 道徳」の教科用図書採択を行いたいと思います。ただいま事務局から説明がありましたが、これまでの検討協議の内容について、私から改めてお話ししたいと思います。

今回、道徳が新たに教科として始まることから、採択の基準を明確化するために、苫小牧市として調査研究の視点を設定しております。

市の現状として、「ひとづくり」を中核に据えた「ふくしのまちづくり」を目指しており、日本初の「男女平等参画都市宣言」のまちでもあります。子供たちの現状として、地域への関心、自己肯定感、生活習慣や相互理解などに課題が見られ、こうした状況を鑑み、道徳教育推進計画を策定し、「考え、議論する道徳」の推進、家庭や地域社会との共通理解の促進を図っております。

こうした本市の現状や未来の姿を見据え、今の子供たちに必要な資質・能力育成のために、「子供目線で学びやすいか、教師目線ではどうか、地域に開かれているか」という3つの視点から報告をまとめていただきました。

その報告を踏まえて2回の勉強会を開催し、意見交換をいたしました。さまざまな角度からご意見をいただき、資料等も参考としながら進めてまいりましたが、まず、共通した意見として、それぞれの項目について扱う量に多少の差はありますが、内容については大きな差はないといった印象でありました。

教師にとっての扱いやすさについての議論では、道徳教育の難しさ、押し付けにな

らずにいかに子供たちに考えさせるかが重要であるのご意見、どの教科書を使うにしても教師へのしっかりとした研修が必要であるのご意見、そういったことから、発問が多くなりすぎずに発問のしやすさが配慮されていると良いのではないかとのご意見がありました。

また、別冊のノートの取扱いに関しては、教科書展示会でのアンケート結果の中で、書くことが目的になってしまう、画一的になるなどの批判的なご意見が多く、低学年では実際に書くことが難しいのではないかとのご意見がありました。一方で、記録として残ることのメリットもあり、使い方次第ではないかとのご意見もありました。また、他教科との関わりについての確認があり、国語と同じ教科書が良いという考えもありましたが、主人公の気持ちを読み取るだけのような「国語の授業」になってしまう危惧もあるとのことでした。その他、アンケートの結果として、大きすぎない、重くない方が良くといったご意見があり、これについては委員の皆様も一致していたと思います。

また、絵が多過ぎる、漫画のようでその印象にとらわれてしまうというアンケートのご意見もありましたが、興味が持てる、親しみやすさもあり一概に悪いとは言えない、バランスが大事ということであったかと思えます。今回は道徳という教科であり、多くの市民の皆様からさまざまなご意見をいただいていることも、これまで説明したところであります

以上、これまでの各委員からのご意見や議論の内容について確認させていただきましたが、これらの議論により、本日の採択に向けた候補を2者に絞っております。

1社目は、東京書籍株式会社です。

「学びやすいか」という点では、個性の伸長、勇気と希望、努力と強い意志、感動などの内容項目に関する教材について興味・関心が持てる内容となっており、向上心・自己肯定感を醸成することができる。教材ごとに主題を掲載しており、見通しをもって主体的に学習できる。

「教えやすいか」という点では、話し合いの約束や問題を見つけて考えることに重

<p>点を置いた教材を配置しており、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うという指導ができる。授業を振り返る発問を掲載しており、授業の進め方がわかりやすい。学期ごとや年間の最後に振り返りを配置しており、大きな括りのまとまりで児童の気付きや考え方の変化を見取ることができる。</p>
<p>「地域に開かれているか」という点では、自分の生まれ育った地域の良さを守るためにどのようなことができるか話し合ったり、自分たちの地域で受け継がれている行事を調べたりする活動を取り上げており、地域と積極的に関わることができる。</p>
<p>もう1者は、株式会社学研教育みらいです。</p>
<p>「学びやすいか」という点では、命の尊さを全学年の重点に捉えており、命の連続性についても多面的に考えることができる。巻頭に学び方や自己を見つめるページ、1年間の学びの全体像を配置し、巻末には1年間の学びを振り返るページを配置しており、主体性や自尊感情を高めることができる。</p>
<p>「教えやすいか」という点では、2学年ごとに同じ重要テーマを設定しており、学年間のつながりを意識した指導ができる。児童の問題意識を尊重し児童自ら考えを深めさせるために、本文より前の主題を非掲載としており、児童の考えを大切にした指導ができる。問題解決的な学習の筋道を紹介するページを配置し、多様な学びの展開を可能にしている。</p>
<p>「地域に開かれているか」という点では、自分にできることから始めることを通して社会に参画する姿に触れたり、地域で支えてくれる人たちに感謝の気持ちを伝えたりする活動を取り上げており、地域とのつながりを感じ取ることができる。</p>
<p>それでは、この2者を中心に、各委員からご意見をいただき決定したいと思います。まずは、上原委員からお願いいたします。</p>
<p>(上原委員) 1点、質問をしてもよろしいでしょうか。前回の勉強会後の、道内の他の地区での採択状況がわかれば教えていただきたいです。</p>
<p>(学校教育課長) 前回お知らせしたところと重なる部分がございますが、我々が聞</p>

き取りにより調査した範囲でございます。まず、胆振管内の採択が光村図書出版株式会社、札幌市も光村図書出版株式会社、函館市が日本文教出版株式会社、帯広市が東京書籍株式会社、岩見沢市も光村図書出版株式会社です。今のところ公表されて押さえているのは、以上となります。

(上原委員) それについてはわかりましたが、例えば、旭川市は8月10日に採択が終わっているし、室蘭市は8月16日くらいに終わっていると思いますので、後で結構ですので、わかれば教えてください。

(学校教育課長) 9月1日に発表されるということで、我々もまだ教えていただいておりません。

(上原委員) わかりました。それでは、2者に絞られましたので、その件について私の意見を申し上げたいと思います。

まず、教育長から2者に関してそれぞれの視点から報告がありました。これは、我々の勉強会の中でもその視点から勉強した訳で、それについては全く異議がございません。私の方でも、8者の教科書を見させていただきましたが、その中で、自分としては4つくらいの視点から見ていきました。その視点も、今回の研究の方針ですね、これが示されましたし、あるいは道徳教育推進計画も示されましたので、選定がしやすかったように思います。この点からいくと、これからまだ教科書の採択は続く訳ですから、このようなやり方を含めて、教育委員会としては研究していく必要があるのかなというようなことを思いました。中身につきましては教育長から報告がありましたので、その点については触れませんが、検討した中で、私としては東京書籍を推薦したいというふうに思っております。

次に、感じたことを意見として述べさせていただきます。各教科書の出版社は、それぞれ教科書検定に合格している訳ですので、そういう面では同じなのだと思います。ただ、今のお話にもあった3点から見た場合には、東京書籍の方が適当ではないかと思ったところです。私が感じたことですが、大切なことは、勉強会の中でも議論をされたのですが、押し付けになってはいけないということが一番強く感じました。

<p>学校や先生方には、この点に充分配慮していただきたいなと思いますし、また教育委員会としても、この点には充分留意していく必要があるのかなと思います。要望のような形になるのですが、意見として申し上げたいと思います。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 私も、勉強会での意見交換や各社の教科書の内容を読んで確認できたことなのですが、題材に使われていること、イラストも含めて1年生から6年生までの扱いを見ていきますと、徐々に自分の考えとしてさまざまなことを考えて、友達や家族や学校でも議論できるような内容の組み方ということと、それから、高学年になればあまり関係ないかも知れないのですが、1年生が持ち運ぶようなこと、また自分で気が付いたときに気軽に勉強するということで、教科書の大きさということも少し考えました。先ほども申し上げましたが、6年間にわたって道徳というものを考えながら勉強していくということで、1年生で初めて道徳という教科書が始まりますという、本当の基礎の段階から使っているということで、東京書籍の教科書がよろしいのではないかと思います。</p>
<p>(植木委員) 私も、8者の教科書を全部見させていただいて、主に読み物資料ということで見させていただいたのですが、8者とも中身についてはほとんど差がなく、同じような教材を扱っていますし、どれを選んでも問題はないなと思いました。それから、たまたま私は学校現場にいたこともあって、道徳に関わってきた経緯があるのですが、特に道徳科では、まずは読み物教材の場合、読み物に出てくる主人公の考えに気付く、それから友達はこのように考えているのだというふうに友達の考えにも気付く、そして現在の自分の考えにも気付く。それを通して話し合い、いわゆる文部科学省のいう議論をする中で、その考えがいろいろと変わったり、自分の考え方をより強く感じたりということを経て、いわゆるそれが「道徳的実践力」ということだと思うのですが、それを通して、最終的にいわゆる道徳性を高めていくような行動にも移ることができるようになるのだと思います。従って、8者について中身の教材は特別変わったところはありませんので、どれでも良いと思うのですが、私が一番重きを置いたのは、視点の3点目の「地域に開かれているか」というところで、東京書籍につ</p>

きましては、自分の生まれ育った地域の良さに気付き、守るためにどのようなことができるか話し合いができるというようなことがありますので、私も今回に限って言うと、東京書籍を採用した方が良いのではないかという思いです。

(佐藤守委員) 新しい教科というところで、特別の教科という捉え方の道徳ですので、今までにない考え方ということで、「考え、議論する道徳」という形になっていると思います。その中で、現在苫小牧市で問題になっている情報モラルの捉え方などを取り上げている教科書が、これからの道徳には必要になってくるのではないかというのを考えますと、東京書籍の中に「お家の人と考えよう」というのがあって、これからは、やはり親子で話し合う機会のためにも道徳というのは重要性があるのではないかと考えますので、その中で東京書籍のそういった取り上げ方をしているところが、これからの道徳には必要ではないかと考えました。

(和野教育長) ありがとうございます。私の意見につきましては、先ほど2者についてお話をしましたが、個人的な意見も加えらしたら、新たに教科が加わるということを考えますと、子供たちにとって負担にならないかどうかという視点を一番考えました。そういった意味では、例えば重さやサイズ、それから先生方にとっては教えやすいか、扱いやすいかどうか、それともう1点、扱いやすさについては設問がある程度限定的になっているところも含めると、やはり皆様と同じように東京書籍が良いのではないかと考えております。

奇しくも、全委員の意見が東京書籍という結果になりましたので、来年度から使用する道徳の小学校教科用図書については、東京書籍ということで決定したいと思います。すがよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(和野教育長) それでは、全会一致で東京書籍を教科用図書として選定したいと思います。引き続き、事務局より説明をお願いいたします。

<p>(学校教育課長) 引き続き、平成30年度に使用する小学校教科用図書、これは道徳科以外の教科用図書となります。それから、中学校教科用図書の採択について、それぞれ法令に基づき4年間使用することとなりますので、現在使用している教科用図書の採択をお願いするものでございます。また、平成30年度特別支援学級の教科用図書につきましては、小中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒が、当該学年用の文部科学省検定済教科用図書の使用が適当でない場合に使用するもので、文部科学省検定済教科用図書の下学年用の教科用図書、それから文部科学省著作教科用図書及び一般図書を含めて、全ての採択をお願いするものでございます。なお、一般図書の使用につきましては、採択された一覧の中から担当の教員が児童生徒の実態に合わせて選択し使用しておりますが、近年、使用図書が大変多岐にわたり、また年々増加傾向にありまして、本来教科書として無償給与されるべきものなのか、また年間の使用計画にどう位置づけて使用しているのかといった精査が今後必要ではないかと考えており、今回はこれまで同様の扱いとして全ての採択をお願いするものでございますが、今後につきましては取扱いの変更も含めて検討してまいりたいと考えております。以上、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。</p>
<p>(和野教育長) ただいま説明がございましたが、これについてご質問はございますか。</p>
<p>(一同「なし」の声)</p>
<p>-原案どおり決定-</p>
<p>議案第2号 苫小牧市立(仮称)第16中学校の校名の決定について</p>
<p>(教育部長) -苫小牧市立(仮称)第16中学校の校名の決定について説明-</p>

(和野教育長) 質疑に付します。
(上原委員) 1点だけ質問させていただきます。今回の校名の選定に関しては公募を行わなかったということです。その理由は、今までも地域の声がなかなか反映されないというような意見が多かったということなのですが、以前、このように公募をしなかった例というのはあるのでしょうか。
(学校教育課長) 今回、検討にあたる前に過去の例を多少調べておりますが、少なくとも近年については公募しなかった例はありません。全て公募が行われていたかと思えます。
(上原委員) そうすると、今回が初めてということですよ。恐らく、これから新設される学校はそんなには思いますが、これが1つの前例になるのではないかと思います。そうすると、学校が設置される地域の意向というのは今までも尊重してきたと思いますが、それをより反映させるということからいけば、今後は学校を新設する場合に公募をしないこともあり得ると理解してよろしいでしょうか。
(学校教育課長) 委員のおっしゃる通りで、ずっとこの方法で行くということではございませんし、今回も、検討会議の中で、公募によって全然違う地域の方から出された校名が適切かどうかというふうにならなかつたのではないかとご意見があったり、まちかどミーティング等でもそういったご意見があったりしました。今回、たまたま「ウトナイ中学校」ということで、地域との関係もあって全会一致という形でこの候補に絞られました。今後については、そこでまとまらなければ地域でアンケートを取る等、いろいろな方法はあったと思います。それは、今後についてその時期が来たらまた検討したいと思えます。
(上原委員) わかりました。
(和野教育長) 他にございますか。なければ、原案どおり決定することとしてよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)

-原案どおり決定-

議案第3号 苫小牧市第2学校給食共同調理場整備基本方針について

(教育部次長) -苫小牧市第2学校給食共同調理場整備基本方針について説明-

(和野教育長) 質疑に付します。

(上原委員) 今回は基本方針なので、マスタープランということですね。恐らく、この後基本設計や実施設計がなされ、当然、教育委員会議にも提示されるのだらうと思います。資料の15ページに整備スケジュールがありますので、恐らくそのようなスケジュールになるのだらうと思いますが、もし決まっていたら教えていただきたいと思っています。

(教育部次長) 設計関係につきましては、今後、スケジュールに沿った形で進めていきますが、まず、厨房機器のプロポーザルを行うということで、それを行った後に設計業務ということで進めていきます。教育委員会議で報告できるのは、その設計業務が終わった後になると思いますので、来年度の設計を終えた段階で報告させていただきたいと思っています。

(上原委員) もう1点、管理運営手法に関してなのですが、平成30年度から調理業務の委託をされる、それと併せて配送業務も委託するということだと思います。これは、指定管理者制度ということで理解していいのでしょうか。また、このような施設ができる際には、地元の企業をできるだけ優先させるといいますか、活用して欲しいという要望が議会等でも出されます。その辺の考えについてはどうでしょうか。

(教育部長) まず、配送業務につきましては、第1・第2学校給食共同調理場で同じ業者になりますが、既に民間委託で配送を行っておりますので、第2学校給食共同調理場を建て替えたとしても、配送業務については引き続き委託という形になります。

給食調理部門の方につきましては、指定管理者ではなく業務委託という形で、第1
学校給食共同調理場と同じ形態を取りたいと考えております。業者の選定につきましては、いろいろと提案していただく中で採点方法が決まっておりますので、当然ながら採点の配点の中で地元業者に関しては加点があるといった状況になりますので、そういう内容全体を踏まえまして、最終的に業者が決定いたします。
(上原委員) わかりました。
(和野教育長) 他にございますか。
(佐藤守委員) 第1学校給食共同調理場が順調に運営されている中で、今度は第2学校給食共同調理場もということで、大きな違いと申しますか、第2学校給食共同調理場の目玉になるようなものは何か考えられているのかどうかお聞きしたいです。また、昨今は「こども食堂」のような、朝食を食べていない子供たち等への対応がよく新聞等に出ていますが、第2学校給食共同調理場が新しくなって、市内の給食がこれで完全に整理されると思うのですが、そのような子供たちへの対応等は考えられていますか。
(教育部長) まず、新しい第2学校給食共同調理場の目玉ということで、先ほどもご説明させていただきましたが、現在は和え物食の提供ができておりません。以前からお答えしているのが、第2学校給食共同調理場が新しく完成した時点で和え物食の提供を行いたいということになりますので、まず、第2学校給食共同調理場の中にきちんとした和え物食を提供できる部屋・設備を整えるということが、1つ新しいこととなります。また、先ほどもお話ししたように、防災機能ですね。津波浸水想定区域ということになっておりますので、防災機能も備えて何かあった時の炊き出し等ができる、そういった体制を整えるというのが、第2学校給食共同調理場の特徴ということになります。あと、「こども食堂」のような子供たちへの食の提供という部分については、今のところ特に考えていることはございません。
(佐藤守委員) わかりました。
(和野教育長) 他にございますか。なければ、原案どおり決定することとしてよろ

しいでしょうか。

(一同「はい」の声)

-原案どおり決定-

議案第4号 教育委員会職員の処分について（諮問）

(和野教育長) 議案第4号につきましては人事案件でございますので、教育委員会
会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、会議の日程の最後に当該議案
の審議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(和野教育長) それでは、議案第4号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うこと
に決定いたします。

6 協 議

(和野教育長) 協議事項をお持ちの方はいらっしゃいますか。

(一同「なし」の声)

7 その他
(1) 平成29年度 教育委員会点検・評価報告書について
(教育部次長) -平成29年度 教育委員会点検・評価報告書について説明-
(和野教育長) 平成29年度の点検評価につきましては、前回の教育委員会の中で内容についてご審議いただきましたので、今回は、評価委員の意見について何かご質問等がございましたら、お願いしたいと思います。今年は、例年に比べてたくさんご意見をいただきました。貴重なご意見ですので、この方針に沿って来年度から事業・評価に取り組んでいきたいと思っております。
特に質疑がなければ、このとおりに取り扱うこととしてよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(和野教育長) それでは、平成29年度点検評価・報告書についての質疑を終結いたします。
次に、先ほど秘密会と決定いたしました議案第4号の審議を行いたいと思っております。関係者以外は退席をお願いいたします。
(和野教育長) それでは、秘密会を解かさせていただきます。
なお、議案第4号は原案どおり決定となりました。
8 委員会閉会の宣言 (和野教育長)・・・16時02分